

ENGAWA

平成26年度 第2号



■目次

《特集》

今、地域で子どもを育てる時代
～次世代の担い手を、
協働で育てよう～
…ページ2～7

《Check》

市民協働センターからのお知らせ
●中山間地域交流ネットワーク
登録者募集中
●市民協働データベース
掲載団体募集中
…ページ8

■表紙のことば

天竜区佐久間町野田地区は、とても緑豊かで景観の美しい集落です。地元で環境指導員を務める藤本千代子さんは、この豊かな自然をまちなかの人にも知ってもらおうと、6月に『野田の自然を体験する会』を開催しました。集まった10代～30代の参加者は、野山を散策し、自生する木々や山野草についての知識を学びました。また山野草を使った料理体験もおこない、五感を使って野田の自然を満喫したようでした。

藤本さんは、『これをきっかけに、また佐久間町に遊びに来てもらえたらうれしい』と語ります。今後も、季節ごとにこのような体験会を企画したいと考えているそうです。

浜松市内の山里には、まだまだあなたの知らない魅力がたくさん。間もなく紅葉シーズン、足を運んでみてはいかがでしょうか。

特集

いま、地域で子どもを育てる時代 ～次世代の担い手を、協働で育てよう～

5年後、10年後の社会を担っていく、10代の子どもたち。この年代は、地域への愛着や、社会への関心が育まれる大切な時期とも言えます。

今、浜松市内では、次世代の担い手を育てることを目的として、学校、NPO、企業、行政、大学生、地域など様々な団体が相互に関わる協働を進めています。これまで、学校に委ねられることの多かった「教育」の領域。しかし、地域のさまざまな団体との協働により、学生は、授業ではできない貴重な体験を積み重ねています。

今回は、地域の諸団体との協働を積極的に進めている浜松市立東部中学校の事例を中心に、10代の子どもたちと関わる地域の大人が、中学生から何を感じ、地域の将来に対してどのような期待を抱いているのかを紹介。地域全体で子どもを育てる意味を考えます。



浜松市立東部中学校 地域との協働による取り組み

浜松市立東部中学校では、平成25年度から、地域のNPOや企業と積極的に関わりながら、学習や社会貢献活動に取り組んでいます。そして今年4月には、新たに「社会貢献部」が発足しました。メンバーは、2年生4名、1年生9名の計13名。活動は校内だけに留まらず、地域のさまざまな団体とも関わりながら、社会貢献活動に励んでいます。



■社会貢献部の活動内容

市内のNPOや企業、大学生、地域の自治会などとともに、緑のカーテン育成、発展途上国へ贈るための鍵盤ハーモニカの手入れ、東日本大震災の被災地復興支援、地域行事のボランティアや企業イベントへの参加など、さまざまな活動に取り組んでいます。

中学生と活動する

大人たちの思い—

浜松市市民協働センターが実施している人材育成講座。そのモデル校として、浜松市立東部中学校を選定しました。それによって「社会貢献部」が誕生。講師を務めたのは、地元の企業、NPO、大学サークルです。それだけではありません。地域行事や防災訓練などでは、自治会とも深い関わりをもっています。

講師を務めた多様な団体のみなさんに、中学生と活動した感想を語っていただきました。



企業



OMソーラー株式会社
企画情報部 部長
村田昌樹 さん

インパクトのある体験を通し、 自然の力を活かした生活の価値を知ってほしい

OMソーラー株式会社は、自然のエネルギーを活かした快適な暮らしを生み出す家づくりに取り組んでいる会社です。太陽熱を集め、それを蓄えて、家全体を暖める仕組みを住宅メーカーに販売しています。

その仕組みを体感できるのが、浜名湖畔に立地している社屋「地球のたまご」です。ここでは、研究・開発だけでなく、小中学生などを対象とした会社見学も受け入れています。

6月には、社会貢献部を対象に、太陽熱を利用して調理する「ソーラークッカー」の体験会を実施しました。OMソーラー部長村田さんの指導のもと、ソーラークッカーを太陽に向け、外側を黒く塗ったフライパンを

セットし、待つこと30分。太陽熱だけでふんわり焼きあがったホットケーキを見て、生徒は歓声を上げていました。

村田さんは、『体験を通して、シンプルな視点や、既製のものに頼らない発想、自然の力を活かした生活の価値を知ってほしいです。また、体験や実感がともなう出来事は印象に残りますし、企業のアピールにもつながる』と語ります。

OMソーラー株式会社をはじめ、浜松市には、地域への社会貢献に積極的に取り組む企業が多く存在します。地元企業との身近なふれあいを通して、学生の心には、地元に対する誇りや、将来こんな会社で働き、地域で活躍したい、という

気持ちが芽生えるかもしれません。

地方では今、人口流出が問題となっています。特に、2013年の人口流出が全国ワースト2位となった静岡県にとって、そんな気持ちを持つ若者が増えることは、地域にとっても企業にとっても意義のある活動だといえるのではないのでしょうか。



村田さんの指導のもと、太陽の熱を利用して調理する「ソーラークッカー」を使い、ホットケーキ作りに挑戦した。

夢創造人 DREAM CREATOR

平成22年度より、市民協働センターが実施している人材育成講座です。浜松市内の市民活動団体や、市内の企業と連携しながら、実践的な活動を通して、人材育成を目的としています。市民活動の新たな担い手として、対象となる中学生、高校生、大学生、市民協働センターの育成講座を実施しています。

夢創造人
(ドリームクリエーター)
養成講座とは？

▼市民協働センターでは現在、次世を担う人材育成講座として夢創造人(ドリームクリエーター)養成講座を実施しています。



助成金を活用し、学校で事業化。 学校とNPO、WIN・WINの関係



NPO法人
サステナブルネット
理事長
渡邊修一 さん

NPO法人サステナブルネットは、緑化活動や子育て支援に取り組む団体です。浜松市ではじめて大型の緑のカーテン設置に取り組み、現在も、東・南区役所で設置から維持管理までを手掛けています。

昨年度からは、社会貢献部とともに、東部中学校校舎への緑のカーテン設置と育成に取り組んでいます。目標は、日本一大きな緑のカーテンの育成。理事長の渡邊さんは、『この活動を通して”他にはないこと”に挑戦する気持ちを知ってほしい』といます。

また、学校との協働に関して、『NPOとしては、活動の場がなければ環境緑化を進めることができません。助成金を得て、

そのお金で緑のカーテンを取り付けていますので、学校との協働自体が助成金獲得のためのPRになります』と語ります。

学校側も、危険な取付け工事や育成のノウハウをNPOに任せて環境教育に取り組めるため、WIN・WINの関係が成り立っているといえるでしょう。

NPO法人は、いわば「社会貢献のプロ」です。しかし、「資金の調達」「情報発信力の弱さ」「後継者不足」に頭を悩ます団体は少なくありません。渡邊さんも、中学校との協働を通して、団体のPRや資金の調達につなげるなど、自立して継続的に活動を行う努力をしているといいます。

そんな渡邊さんと活動した

生徒の意識の中には、市民活動の楽しさや大変さ、そして「社会貢献のプロ」という新しい価値観が芽生えるかもしれません。

将来、市民活動が身近となり、社会貢献活動を仕事として選ぶことが当たり前になったら…。「後継者不足」の解決のためには、今から人材育成に取り組む必要があると思いませんか。



緑のカーテン苗植え作業のようす。土に触れ、身近な緑への関心が高まった。

大学サークル



NPO団体
サポートサポート
とうかい 代表

加藤胡桃 さん
(静岡文化芸術大学
4年)

「将来こんな人になりたい」と思う キッカケになれたらいいな。

NPO団体サポートサポートとうかいは、市内の大学に通う学生によって設立された任意団体です。浜松市を拠点として、東日本大震災の避難者支援や風化防止活動に取り組むほか、被災地への視察ツアーも行っています。

6月に開催した震災復興チャリティコンサート。社会貢献部がボランティアとして参加し、会場設営や受付などを手伝いました。その姿について、代表の加藤さんは、『こちらが指示を出さなくてもテキパキと動いてくれる姿が印象的でした。募金の呼びかけも元気よく積極的におこなってくれました』と関心しているようすでした。

中学生との活動について『彼

らにとって、私たちは一番身近な将来像です。私たちを見て、「将来こんな人になりたい」と思ってもらえる、刺激を与えられたら良いなと思います。成長した彼らが、同じように、年下の子たちをつないでくれたら嬉しいですね』と、期待を膨らませていました。

一般的に「大学サークル」というと、学生のお楽しみサークルや一過性の活動だと思われがちです。しかし、彼女たちのように、震災についての取り組みを続け、防災や減災のノウハウを培っている団体も存在しています。そうした団体が、人材育成という視点から地域の中学生と関わることによって、将来の減災リーダー育成につ

ながる可能性があります。

大学サークルにとっても、地域に根ざした中学校と関係を持つことで、活動の必要性や実績を社会にアピールすることができます。それは活動の継続性へとつながり、やがては、大学サークルという枠を越えて、地域から必要とされる団体に変革する可能性を秘めているのではないのでしょうか。



チャリティコンサートのようす。中学生とことばをかわす加藤さん。

自治会

お互いが歩み寄り、支え合える関係を。



渡瀬町
(東部中学校 校区)
前自治会長
渡瀬静夫 さん

東部中学校の校区である渡瀬町と、その周辺13地域を含む飯田地区では、中学生との交流を積極的に進めています。

例えば、地区のボランティアセンターでは、毎年東部中学校の生徒たちが「東中ソーラン」という踊りを披露し、地域住民の楽しみのひとつとなっています。また、学校の防災訓練で不足していたお釜を、各自治会が提供するなど、お互い支え合って活動を行っています。

渡瀬町の前自治会長である渡瀬さんは『身近な地域の問題として「防災」について考えたとき、顔の見えるつながりをつくっておくことが、お互いの命を助けることにつながるのではないかと語ります。

”一日の中で、自分が住む地域に一番長い時間いるのは誰か”ということを考えたとき、それは恐らく、小学生、中学生、高齢者です。日中に万が一自然災害が起きたとき、体力的に最も動けるのは、中学生ではないでしょうか。その中学生が、有事の際、自ら判断して行動できるようになることは、防災力の向上につながります。

勉強や塾、テスト、部活など、多忙な日々を送る中学生は、地域活動へ参加する時間がなく、近年は地域との関係性が薄れていると言われます。そのような中で、積極的に地域との交流を図るためには、双方の理解と多くの努力が必要だといえます。しかし、地域

の人とすれ違ったとき、「おはよう」と挨拶を交わす。そんな身近なところからも、顔の見える関係はつくっていくことができます。

地域とともにある学校と、身近にいる地域の人々にとって、顔の見える関係を育くむことは、より安心・安全なまちづくりにつながるといえるかもしれません。



NPOとともに生徒らが作製した木製ベンチ。地元の神社に寄贈され、お年寄りや子供たちの憩いの場となっている。

浜松市の思い

浜松市で進みつつある、人材育成を目的とした協働。地域全体で子どもを育てる取り組みについての考えを伺いました。

浜松市は、次世代に「ツナグ」、世界と「ツナグ」、人を「ツナグ」をキーワードに施策を推進しています。そして、浜松市の将来を担う人材の育成に取り組んでいます。

そのひとつとして、市民協働・地域政策課では、平成25年度から、中高生という若い世代を対象とした「市民活動体験講座」を実施しています。本年度も、いろいろな分野で活動する市民活動団体にご協力いただき、中高生が実際に市民活動を体験しました。

市民活動の必要性や活動する方々の思い、社会背景などをより深く知ってほしい。また、市民活動というものが特別なものでは

なく、自分たちの暮らしのすぐそばにあって、自分たちも支えられているということ、そして、それに関わることは特別なことではなく、実は誰でも関わることもできるということに気づいてもらいたいと思っています。

これからも、市民協働・地域政策課では、若者が市民活動に触れる機会をさまざまな形態で設けていきたいと考えています。今は、市の事業として実施していますが、そうするまでもなく、活動してみたいと思ったときに、気軽に団体とつながることができるようになれば、市民活動がより身近になるのではないのでしょうか。

浜松市市民部
市民協働・地域政策課
市民協働グループ長
副主幹

井川宜彦 さん



市民活動を身近に触れ、関わりながら成長し、市民活動というのが意識の中で当たり前のような人たちが、20年後、30年後にはたくさんいてほしい。そして、NPOをはじめとする市民活動団体の社会的ステータスが一層高まって、魅力的な就職先の選択肢の一つになっている、そんな未来につなげていけたら素敵だな、と思っています。

地域とともに子どもを育てる、学校の思い—

地域やNPO、企業等、様々な組織との協働を進める東部中学校。須山校長先生から、地域全体で子供に関わることの意義や、これからの学校のあり方について、考えを伺いました。



地域のために働く子ども、 地域で育ててもらおう学校を目指して

浜松市立東部中学校
校長 須山 嘉七郎 さん

地域に育ててもらおう 学校を目指して

教育センター勤務時、東日本大震災をきっかけに、地域学習の教材化を考えていたことがまずベースにありました。

そして東部中学校に着任したとき、前任の校長の「地域に貢献する活動」「地域に開かれた学校にしたい」という目標が残されていて、それがちょうど自分の持っていた感覚と同じでしたので、今度は活動という形に表したかったのです。

授業でやる場合は、授業の枠にはめていけば良いのですが、それでは生徒にとって、イベントになってしまう。それよりも自分たちが積極的に動ける、顧問の先生と一緒にできるほうが良いと考えました。そんなとき、ちょうど園芸部が学校の花壇の世話を積極的に取り組んでいたのを見て、発展的に部を解消して社会貢献部を作りました。

社会のためになる力を 身に付けてほしい

これから先、子どもたちにとって、社会のために何ができるかが問われる時代が来ると思います。「部活」を通して、自分たちが社会とどう関わっていくか考え、活動できることは、今の時代にとって素晴らしいことです。このような活動は全国的にも、他には無いのではないのでしょうか。

阪神淡路大震災時、中高生などの若い力がいざというときに動けることが証明されています。社会貢献部としての活動で、「自分たちはこんなことができる」「こんなつながりがある」という経験を積むことは、災害時に大きな強みになります。

子どもたちが地域と関わる取り組みを通して、地域防災面ではもちろんのこと、地域のために働く子どもたちにしたいと考えます。また

学校としても、地域で行われる行事にはすべて参加し、地域で育てていただく学校にしていきたいのです。

それぞれが持つ強みを活かして

学校とNPOと企業が、一緒にやっていくことは大変なことです。もちろん乗らない学校が多いのも事実です。ですので、学校側が知りえないつながりや組織の実績をNPOの方から紹介していただいて、学校がそれに乗っていく感じが好ましいと思います。

例えば、昨年実施した東日本大震災の被災地を巡るツアーでは、浜松市のNPOの方々が被災地である気仙沼の市民団体とつながっていて、交流の実績もあげていました。そこに学校が乗っかっていくことで改めて、地域づくり、まちづくりを考えるひとつの素材になり、ひとつづくりの一環につながります。

企業も今、地域にどんなスタンスで貢献していくかが問われています。わたしたちが減災体験ツアーに支援物資を持って行きたいと思ったとき、モノでもお金でも良いから、企業に対して支援をお願いしています。そして、実際にご支援いただいた会社の名前は必ず公表します。その結果、企業にとっては多少損失が出たとしても、社会貢献活

動による認知度アップが最大のメリットとなります。

協働をすることによって、結果的には学校は職員の意識が変わり、子どもたちが元気になり、保護者の理解が深まります。そして、学校の発想が変わっていきます。今こそ保守的な学校は、これまでの固定観念を捨てるべきではないでしょうか。



昨年、宮城県気仙沼にて実施した減災体験ツアー。地元の市民団体による案内のもと、東部中学校の生徒31名は被災地を巡り、減災について学んだ。浜松市内のNPOと被災地の市民団体とのつながりによって、ツアーは実現した。

東部中学校だけではありません。

～北区細江町でも動き出した、中学生とNPOの協働～

北区細江町の地域活性化を目的として、平成25年3月に設立された「NPO法人まちづくり細江」では、地元の細江中学校との協働事業に積極的に取り組んでいます。まず取り掛かったのは、細江公園を地域の憩いの場として活用するための整備活動。生徒たちとともに、これまで3回にわたって、公園内の遊具のペンキ塗りや草取りをおこないました。

細江中学校からは、毎回20人を超える生徒が参加しています。同法人理事長の江間さんによると、生徒たちはボランティアに積極的で、一生懸命取り組んでくれているそうです。



理事長の江間敏雄さん

人口が減少傾向にある細江では今、地域を引っ張っていく次世代のリーダーが不足しています。江間さんは、『子どもの頃から、外部(NPOや企業)と関わりを持ち、一緒に活動することで、地域貢献活動に興味を持たせることが大切では』と考え、このような取り組みを続け



NPO法人まちづくり細江のメンバーと、公園整備に参加した小中学生。企業も巻き込んで、みんなで地域を盛り上げている。

ています。最近は、小学生も参加するようになり、活動が徐々に広がっているそうです。

『最初は“ペンキ塗り楽しいな”だったのが、“この公園には天皇陛下の歌碑があるんだな”といったように、地域の魅力に気がついてくれればいい。わたしたちにとっても、若き芽を育てていくことが、最大の地域貢献だと考えます』と語る江間さん。10年後、20年後の未来、その思いが実ることを期待します。

おわりに

今、子供たちを取り巻く環境は変化しています。昔のように、世話焼きな大人やご近所さんもあまり見られなくなりました。過疎化が進む市町では、子供たちの数が減り、地域の担い手も減りつつあります。

子供たちが普段関わっている社会は、ごく一部でしかありません。しかし、まわりを見渡せば、社会は無限に広がっています。市民活動の楽しさ、大変さ、やりがい。学校以外の人との交流や活動を通して、子どもたちは色々なことを吸収していきます。学んだものが積み重なり、将来、身近な地域を引っ張っていく原動力となるかもしれません。

あなたも地域とともに次世代の担い手を育ててみませんか。

Check!



一人がつながる、笑顔が増える。

中山間地域交流ネットワーク事業 登録者募集中!

市民協働センターでは、“中山間地域”と“都市部”、双方の地域活性化を目的として、様々なかたちの交流・体験事業を行っています。少子・高齢化などの問題を抱える中山間地域と、人と人とのつながりが薄れつつある都市部とが手を取り合うことにより、将来にわたって互いに助け合うことのできるネットワークをつくりまします。

※市内の中山間地域…天竜区及び北区引佐町北部

活動例

『鹿島の花火大会にぎやかし応援団』



天竜区最大の規模で開催される『鹿島の花火大会』と一緒に盛り上げ、支えてくれるスタッフを募集。今年は20代～60代の男女8名が参加し、天竜館観光協会のメンバーとともに汗を流した。(2014.08.02 実施)

まずは登録を!

- 交流・体験に参加して中山間地域を盛り上げる“サポーター”として!
- 交流・体験活動の受入れ側(団体)として!

⇒登録すると…

- ・サポーターには中山間地域での交流・体験活動の募集案内を随時配信。
- ・受入れ団体には、交流・体験活動実施までのサポートおよび参加者募集のお手伝いをします。

詳しくは市民協働センターHPへ。

- ★簡単に登録手続きができます。
- ★過去の活動内容もチェックしてみよう!

— “つながりたい” を応援! —

市民協働データベース 掲載団体募集中!

市民協働センターホームページ内に開設している『市民協働データベース』に、あなたの団体の協働・連携への思いを掲載して、PRしませんか? 団体の基本情報はもちろん、「わたしたちの団体、こんなことができます!」「こんな協働アイデアを実現したい!」といった具体的な内容を掲載。他の団体・企業とのつながりをつくる、後押しをします。

掲載例

協働データベース

NPO法人 浜松緑のカーテン応援団

わたしたちの団体、こんなことができます

こんな協働をしたい

代表者	渡邊修一
連絡担当者	渡邊修一
住所	〒433-8122 浜松市中区上島6丁目25-13
連絡先	090-4468-0582
ホームページ	http://green-father.sakura.ne.jp/
E-mail	greendays@shizuoka.tnc.ne.jp
活動開始時期	平成22年11月～
会員数	10人
主な活動エリア・場所	浜松市全域
活動分野	◎環境 ○子育て支援、教育
活動目的	全ての市民に対して、持続可能な社会を形成するため、緑化活動や子育て支援活動を通して、地球温暖化や少子高齢化によって引き起こされる問題を改善する事業をおこない、共に住みやすい心豊かな社会の形成に寄与することを目的とする。



この団体と協働したい!

★掲載希望の方は、市民協働センターまでお問い合わせいただくか、HP左下のコチラのバナーをクリック!⇒



発行 浜松市市民協働センター 〒430-0929 浜松市中区中央一丁目13-3

電話 053-457-2616 FAX 053-457-2617

[HP] <http://www.machien-hamamatsu.jp/> [E-mail] kyoudou@machien-hamamatsu.jp